

そのなかでも電鉄向け需要の落ち込みが大きいようだ。

次にアルミ電線を見てみると、20.4%増の2,110トンと3ヶ月ぶりにプラスとなった。電力が6.1%増の1,500トンで2ヶ月連続のプラス、その他内需が2%増の300トンで3ヶ月ぶりのプラス、輸出が633.3%増の300トンで3ヶ月ぶりのプラス。電力向けがプラスとなったことが最大の原因だが輸出が大きく伸びたことも、今回のプラス成長の

原動力となっている。最も輸出は12月が25トンと極端に低かっただけに、1月は反動増の側面もある。今回のプラス成長を回復の兆しとみるには、まだ早いだろう。

12月のEM電線・ケーブル出荷実績は、機器用電線が100%増の4トン、通信用電線・ケーブルが8.7%減の95トン、電力用電線・ケーブルおよび被覆線が0.2%増の2,894トン。合計は横ばいの2,993トンとなっている。

(株)愛国電線工業所、2月19日に自己破産申請 負債額は約13億4900万円に

(株)愛国電線工業所(資本金9,000万円、東京港区高輪2-21-41、代表三浦三郎氏)は2月19日に東京地裁へ自己破産を申請し、翌20日に破産手続き開始決定を受けた。破産管財人は糸毛良和弁護士(新宿区新宿1-8-5、電話03-3356-5251)。財産状況報告集会期日は6月5日午後3時30分。

同社は、1938年(昭和13年)2月創業、48年(昭和23年)5月に法人改組した電線、ケーブル、ハーネス類の製造、卸業者。用途は、コピー機、ファクシミリ、プリンターなどのOA機器からエレベーター、ソーラー機器まで多岐にわたり、69年に東京工場の操業を開始して90年には岩手工場が完成し生産能力を大幅に増強、大手電機メーカーを得意先として業容を拡大していた。

得意先の海外生産シフトが進むなか、同社も香港に子会社を設立するなどして業界環境の変化に対応していたが、一方で96年に岩手工場を開鎖、

2003年には東京工場の大半の土地を、2007年には旧・岩手工場の不動産を売却するなど資産・人員のリストラを推進していた。鋼など原材料価格の高騰が続いた、得意先からの値下げ要請も厳しいなか、再建策は一定の効果をあげ、2008年3月期には年売上高約26億1,100万円を計上し、利益も確保していた。しかし昨秋以降の急激な景気後退による得意先メーカーの減産で受注が急速に減少。先行きの見通しが立たなくなり、2月19日に事業を停止して今回の措置となつた。負債は2008年3月期末時点で債務者数は約160名に対し約13億4.900万円。

大紀アルミニウム工業所(2月21日付)人事異動▽技術部嘱託(結城工場長)浅倉忠司▽結城工場長(結城工場長代理)荒山正勝

非鉄全連青年部会 第3回全国合宿大阪大会 橋本健一郎氏による報告レポート

さる2月21日に3回目となる全国合宿が大阪で行われ、全国から総勢40名が参加した。今回は「ライバルに学べ!」を目的テーマに大阪の橋本アルミ、神戸ポートリサイクル、橋本金属の順に見学会が行われた。

橋本アルミでは創業の精神や沿革、そして経営理念「人に社会に清く正しく美しく」についての説明やCSR(社会貢献事業)への参加について説明があった。さらに2004年から2008年の景気拡大期に重なった橋本アルミの中長期経営計画(07-09年)についての説明の中で合理性に富んだ工業化(マニュファクチャリング)を取り入れた回転すのビジネスモデルを参考にあげ、それを基に改

革を行ってきたとの話があった。そして次期、中期経営計画は工業化(マニュファクチャリング)しそう一時落ち込んだファーストフードが合理性を残した上でまったく新しい商業化(コマーシャリング)を行い復活したことを取り上げその事例を参考に行こうとの説明があった(インダストリアルコマーシャリング)。

その後工場案内があり、大量仕入れに対応するための設備や月に二人で800トン処理するためのフロー及びプログラムに一同関心されたようだ。

その後神戸ポートリサイクルに移動。こちらは神戸市の環境政策「エコテック21」のモデル事業として設立され、民間10社の出資で運営され、次

の成り立ち、国内販売に特化した経営姿勢、などの説明を受け工場内を見学、一同、都心の中心に600坪の工場があることや地域社会との調和に感心した。

その後懇親会場にてまとめの講義として橋本健一郎氏が「日本及び中国の非鉄金属リサイクルの展望」を約40分おこなつた。今回で3回目となる全国合宿であったが内容、参加人数も会を重ねることに充実してきており今後の青年部会の全国パワーに大いに期待したい!

故銅市況 LME銅相場高と円安を受けて強含みに推移 中国向け込黄銅は現在18万円辺りに値上がり 2月の銅建値変更タイムリミットは27日

故銅市況は、LME銅相場高と為替の円安・ドル高を受けて国内採算が値上がりしたため強含みに推移している。

24日入電のLME銅相場は61ドル上伸して3,212ドル、NY銅相場も2.05セント上伸し143.45セントとなった。為替は前日比1.13円、円安・ドル高の95.30円、NYカーブは20ドル安で、国内採算値が9,500円高の34万3,100円となって、閑税を1万5,000円とするとプラスして35万8,100円となり現行35万円建値比8,100円高となった。

為替動向としては「東京外匯為替市場の円相場は日本株を売って資金をドルに換える動きが出たためドル高傾向となり前日比1.25円、円安・ドル高の94.60~63円に推移した。(銀行筋)」

LME銅相場は在庫減少を受けて上伸し為替の円安もあって銅建値計算は1万円高となった。山元は2月の銅建値変更タイムリミットを27日(金)としているため、今月は変更があったとしても後1回になりそうだ。

中国動向として、ある有力問屋は「久しぶりに中国のバイヤーから電話があり並銅を3トンほど欲しいといってきた。中国の買い気が出てきている感じだ」。また、別の有力問屋は「今まで被覆線や被覆銅を中国に売っていたが、インドから、こういう品物の引き合いが出てきていると、ある情報筋から聞いた」。また、別の有力問屋は「中国は広大な所なので被覆線や被覆銅の値段は町中と田舎で大きく値差がついているそうだ」と話している。

ある商社筋は「中国の買い気は国の大型インフラ整備の影響で出てきている。特に、被覆銅は入

り用のため一項の17万円から今は18万円どころとなっている。ただ被覆銅は、余りぎみになり一項の11万5,000円から、今は11万円辺りに値下がりしている。被覆銅は3万5,000円辺りで変わっていない」と述べている。

各大手問屋の中心買値はビカ線が27万5,000円、上銅新は25万5,000円、上銅普通は24万5,000円、並銅は21万円、被覆銅は20万円、下銅は15万円、セバは23万5,000円、コペルは19万5,000円、黄銅削粉は19万5,000円、並青銅削物削粉は19万5,000円どころとなっている。

なお、WTI(テキサス産軽質油)原油市場は米国株式の急落を受けて売られ前週末比1.59ドル安の38.44ドルとなった。また日経平均株は167.95円安の7,208.21円、NYダウも250.89ドル安の7,114.78ドルとなった。

市中相場はビカ線27万~28万円、上銅新くず25万~26万円、普通上銅24万~25万円、2号被覆銅20万5,000~23万円、並銅20万~22万円、被覆銅18万~21万円、下銅14万5,000~16万5,000円、セバ22万5,000~24万円、コペル19万5,000~20万円、黄銅削地19万~21万円、黄銅削粉18万5,000~20万5,000円、黄銅ラジエター6万6,000円~7万1,000円、交叉ラジエター10万7,000~11万2,000円、黄銅削物11万5,000~12万円、同山送り7万2,000~7万7,000円、上銅削物21万~22万円、並青銅削物19万~20万5,000円、上銅削物削粉21万~21万7,000円、並青銅削物削粉18万6,000~20万3,000円どころ変わらずだが、国内採算が値上がりしたため強含みに推移している。